

瑞穂町 あすなろ児童館

追加予算をかけずに始める 「未完成な居場所」

中高生と共創する、空き部屋リノベーション計画(案)

瑞穂町 職員 井上一也

瑞穂町 職員 川島靖弘



実際の部屋を出発点にする

- この部屋は「失敗」なのではなく、スタート地点
- どうすれば中高生自身が『ここに来たい』と思える場所にできるだろうか。
- 一緒に考えましょう

なぜ「場所がある」のに、中高生は来ないのか

大人にとって
使いやすい空間



中高生にとって
居心地のいい空間

- ・ 明るすぎる照明
- ・ パイプ椅子
- ・ 禁止事項
- ・ 「何かをする」ことを求められる
- ・ 会議机
- ・ 整然とした収納
- ・ 大人からの声かけ

中高生に必要なのは「もう一つの学校」ではない

中高生の居場所に必要なのは 「もう一つの学校」ではない

学校 = 評価される

家庭 = 役割がある

児童館 = 遊ばなければならない？

中高生の居場所

「何もしなくてもいい場所」



居場所の 3 つの条件

① 何もしなくていい

(何をするか決められたくない)

② 斜めの関係

③ 未完成・余白

「大人が完成させる」のではなく 「中高生とつくる」

従来型

大人



施設を作る



ルールを決める



中高生を呼ぶ

あすなろ型

大人



最低限だけ用意する



中高生が来る



「ここ、どうしたい？」



一緒につくる

変えるのは「モノ」ではなく使い方

- 机や椅子を動かす
- 照明を調整する
- 収納の中身を変える
- ルールを見直す
- 地域から不要品を募る（環境課との連携含む）

「予算 0 円」 新しい家具を買わなくてもいい。



現在のあすなろ児童館

- 「この部屋をどう変える？」



他の自治体、団体が運営する居場所（参考例）



あすなろ児童館の中高生の居場所 (生成AI作成イメージ)



「引き算」だけでここまで変わる

消す・減らす

✕ 「学校っぽい」配置

✕ 学童らしい色彩

✕ 過剰な照明

残す・活かす

○ 床・机・棚

○ 電源・Wi-Fi

○ 既存設備

○ 空間そのもの

足す

+ 寄付マンガ

+ ラグ

+ クッション

+ 手作り看板

+ お茶・お湯

「3つの場所」を1部屋の中につくる

CHILL

沈没ゾーン

寝転がる
スマホ
雑談
何もしない

CAFE

雑談ゾーン

お茶
お菓子
友達
スタッフとの会話

SOLO

没入ゾーン

勉強
読書
動画
ゲーム

つまり、

「全員が同じことをする部屋」にしない。

「何もしなくていい」を本気でやってみる

スマホを見ていていい。

勉強していていい。

マンガを読んでいていい。

寝転がっていていい。 友達としゃべっていていい。

「何もしなくてもいい。」

これが、この事業の絶対的な思想起点

大人の役割を変える

大人は「管理する人」から「一緒にいる人」へ

担当者・スタッフは、「何してるの？」ではなく、「お疲れ」くらいの声かけで。

困ったときには、「これ、どうしたらいいと思う？」と聞く程度。

「先生」ではなく、**ちょっと面白い大人**という立ち位置。

「最初から完成させない」

未完成だから、中高生の出番がある。

「マンガがないんだよね。」

「この場所、何を置いたらいいと思う？」

「この名前、どうしよう？」

「この机、どこに置く？」

「利用者」から「**つくる側**」へ変えていく。

「漫画を含む本を寄付してください」

BEFORE

「書類棚」



AFTER

「みんなの本（マンガ）棚」

**あなたの家で眠っているマンガを含む本、
中高生の居場所にください。
これなら町民参加にもつながる。**

居場所の「名前」を中高生に決めてもらう

例えば・・・

- TEEN'S BASE
- ROOM 0 (ゼロ)
- BASE 3 2 4 (MIZUHO)
- あすなろBASE

「この部屋の名前、何がいい？」
から始める。

名前を決めること自体が、
最初の「自治」

問題が起きたら「禁止」ではなく「一緒に考える」

担当が一番心配するところ

飲食のゴミ



どうすればきれいにできる？

一部グループによる占有



どうすればみんなが使える？

騒音



どうすれば他の利用者と両立できる？

問題が起きたら、ルールを増やすのではなく、まず対話する。

「何でも自由」にしないことは重要。
安全・衛生・他利用者への迷惑など、行政として守るべき最低限のルールは残す。

「追加予算をかけない」 だから実験できる

最初から大きな事業にしない。

まず 1 か月。

まず数人。

まず配置換え。

何人来たか

何時間滞在したか

リピーターが何人いたか

何を求められたか

どんな問題が起きたか

「失敗したらどうする？」ではなく、
「実証実験だから、改善すればいい」

明日できること

- ① 机を動かす
- ② 空間を空ける
- ③ リサイクルプラザで使えそうなものを探す
- ④ 瑞穂農芸高校の学生とのコラボレーション
- ⑤ 「ここをどうしたい？」と中高生に聞く

「0円から始める100日実験」

「居場所は、大人が完成させるものではない。」

- 居場所は中高生と一緒につくっていくもの。



何もしなくていい。ただ、ここにいていい。